

Ⅱ 調査結果概要

県内中小企業の経営状況

緩やかな回復の動きにやや足踏み感がみられる。
先行きについては、やや慎重さがみられる。

- 経営者の景況感D Iは、前期比で0.7ポイント減少し、2期連続で悪化した。業種別では、製造業は8期ぶりに悪化し、非製造業は2期連続で悪化した。先行きについては、「良い方向に向かう」が前回調査から減少し、「どちらともいえない」「悪い方向に向かう」がともに増加した。
- 売上げD I・資金繰りD I・採算D Iは2期ぶりに改善した。
- 設備投資の実施率は横ばいである。
- 来期については、売上げD I・資金繰りD I・採算D Iは、改善する見込みである。また、設備投資実施率については悪化する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、D Iを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異の生じるものがある。

注2) 「前期」：平成30年1～3月期、「当期」：平成30年4～6月期、「来期」：平成30年7～9月期

1 経営者の景況感と今後の景気見通し

景況感D Iは▲30.3となり、2期連続で悪化した。前期比で0.7ポイント減少したが、前年同期比では8.5ポイント増加した。

業種別にみると、製造業(▲25.5)は8期ぶりに悪化し、非製造業(▲34.1)は2期連続で悪化した。

〈景況感D Iの推移〉

	当 期 (H30.4-6)	前 期 (H30.1-3)	前年同期 (H29.4-6)	来期見通し (H30.7-9)
全 体	▲30.3	▲29.6	▲38.9	▲12.0
製 造 業	▲25.5	▲24.4	▲37.3	▲9.0
非製造業	▲34.1	▲33.8	▲40.1	▲14.3

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は9.7%（前回調査(H30.1-3月)比▲2.4ポイント）、「悪い方向に向かう」とみる企業は21.7%（前回調査比+0.9ポイント）だった。

景気見通しD Iは▲12.0（前回調査比▲3.3ポイント）と、2期ぶりに悪化した。

〈今後の見通し〉

「良い方向に向かう」と回答した割合

	今回調査 (H30.7-9見通し)	前回調査 (H30.4-6見通し)
全 体	9.7%	12.1%
製 造 業	11.3%	14.8%
非製造業	8.5%	9.9%

「悪い方向に向かう」と回答した割合

	今回調査 (H30.7-9見通し)	前回調査 (H30.4-6見通し)
全 体	21.7%	20.8%
製 造 業	20.3%	17.6%
非製造業	22.8%	23.4%

2 売上げについて

売上げD Iは▲16.3（前期比+5.6）となり、2期ぶりに改善した。来期も改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより改善する見通しである。

〈売上げD Iの推移〉

	当 期 (H30. 4-6)	前 期 (H30. 1-3)	前年同期 (H29. 4-6)	来期見通し (H30. 7-9)
全 体	▲16.3	▲21.9	▲17.7	▲8.2
製 造 業	▲10.5	▲19.7	▲17.3	▲2.5
非製造業	▲20.8	▲23.7	▲18.0	▲12.6

3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲13.8（前期比+4.9）となり、2期ぶりに改善した。来期も改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業は当期の資金繰りD Iより改善、非製造業は当期より悪化する見通しである。

〈資金繰りD Iの推移〉

	当 期 (H30. 4-6)	前 期 (H30. 1-3)	前年同期 (H29. 4-6)	来期見通し (H30. 7-9)
全 体	▲13.8	▲18.8	▲14.4	▲13.0
製 造 業	▲11.5	▲17.8	▲15.3	▲8.8
非製造業	▲15.7	▲19.6	▲13.6	▲16.3

4 採算について

採算D Iは▲21.9（前期比+5.2）となり、2期ぶりに改善した。来期も改善する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iより改善する見通しである。

〈採算D Iの推移〉

	当 期 (H30. 4-6)	前 期 (H30. 1-3)	前年同期 (H29. 4-6)	来期見通し (H30. 7-9)
全 体	▲21.9	▲27.1	▲21.7	▲16.6
製 造 業	▲17.1	▲27.2	▲19.9	▲11.5
非製造業	▲25.7	▲27.0	▲23.1	▲20.5

5 設備投資について

実施率は21.1%となり、前期と横ばいである。来期は減少する見通し。

業種別にみると、製造業は3期ぶりに増加し、非製造業は2期連続で減少した。

来期については、製造業、非製造業ともに減少する見通しである。

〈設備投資の実施率〉

	当 期 (H30. 4-6)	前 期 (H30. 1-3)	前年同期 (H29. 4-6)	来期見通し (H30. 7-9)
全 体	21.1%	21.1%	21.8%	18.8%
製 造 業	25.9%	25.4%	25.5%	23.2%
非製造業	17.3%	17.6%	18.9%	15.5%

6 ヒアリング調査の概況（詳しくはP23以降をご覧ください）

【現在の景況感】

（一般機械器具）・受注状況は良好であるが、原材料高もあり景況感は普通であると感じている

（電気機械器具）・大企業は業績が良いが、中小企業や零細企業はそうでもないと思う

（金属製品）・原材料高など不安要素もあるものの、受注状況は旺盛であり、好況である

（食料品製造）・新規事業も出足は好調に推移しており、好況であるとみている

（印刷業）・企業の規模によって格差があり、一見景気は悪いようには見えないかもしれないが、良くはないと感じる

（スーパー）・客が必要最小限のものしか購入せず、ちょっと贅沢するというのが少ない

【売上・採算】

（輸送用機械器具）・全体の売上げは増えていないが、個別案件の受注で売上げが伸びている

（電気機械器具）・ガラス部門の大口客の受注が少なかったため、減った

（プラスチック製品）・半導体、医療、食品、自動車いずれも好調

（ 鋳 物 ）・建設機械関連の発注が増えている

（ 商 店 街 ）・底打ちから少しは良くなっているのかなという印象はある

（ 百 貨 店 ）・化粧品が好調で、単価・点数とも上がっている

（サービス業）・当社は顧客は団体客が中心であるが、前期と比べて仕事の引き合いが増えている

【今後の見通し】

（一般機械器具）・原材料高に加え、円高基調も気になるころであり、どちらともいえない

（輸送用機械器具）・ディーゼル乗用車向けは売上減少も産業用機械向けは好調

（食料品製造）・事業に勢いがあることから当面景況感は良い方向に向かっていると感じる

（印刷業）・収益のよくない仕事は断るようになっているが、大手からの受注がないと厳しい

（百貨店）・衣料品、化粧品、宝飾品が回復傾向にあり、良い方向に向かうと思う

（スーパー）・良い方向に向かう。働き方が見直されるなかで、労働生産性は上がるのではないかと

（情報サービス業）・9月に特定労働者派遣事業が廃止される。優良な企業だけが残ると考える